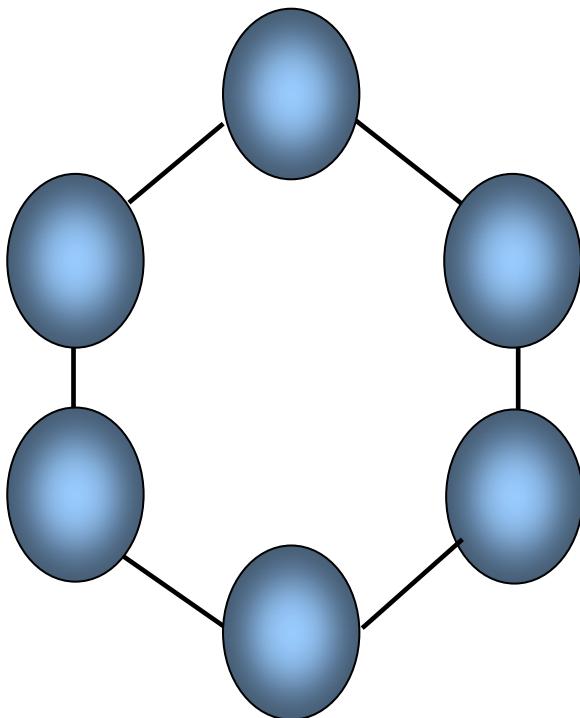




環境経営レポート

2024年度（期間： 2024年5月～2025年4月）



株式会社 ダイニチ

作成 : 2025年 8月25日

目 次

I. 事業概要	1
II. EA21認証対象部門と環境経営体制	2
III. 環境経営方針	4
IV. 中期の環境経営目標	5
V. 2024年度の環境経営計画と活動結果の評価	6
VI. 活動の結果と評価	
1. 二酸化炭素排出量の推移	7
2. 廃棄物排出量について	9
3. 化学物質使用量について	9
4. 節水について	10
5. 環境事故の想定訓練及びその対応	10
6. 環境に配慮した製品開発	10
7. グリーン購入の推進	11
VII. 来年度（2025年度）の環境経営計画	12
VIII. 環境関連法規等の遵守状況	13
IX. 代表者の総合評価と見直し	14

I. 事業概要

1 事業所名及び代表者名

株式会社 ダイニチ
代表取締役 堂ヶ崎 重実

関連事業（研究開発部門）
日本資材株式会社 R&Dセンター長 片山 聰

2 所在地

滋賀県愛知郡愛荘町東円堂923-2

3 事業内容

① 化成品部門

- ・繊維生地とウレタンフィルムのラミネートおよびコーティング加工
- ・機能性フィルムの製造販売

② 電子材料部門

- ・有機感光剤の製造販売
- ・機能性顔料の微細化加工
- ・カーボンナノチューブの分散

③ R&Dセンター

- ・有機感光剤・機能性顔料の研究開発
- ・機能性フィルムの研究開発
- ・分散技術の開発研究

4 事業規模

- ① 売上高： 1,142百万円
- ② 従業員： 68人（2025年4月30日現在）
- ③ 床面積： 10,139m²



ラミネート加工品

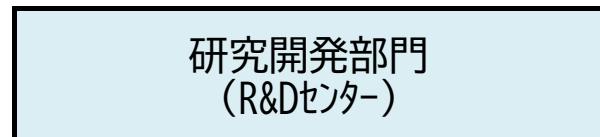
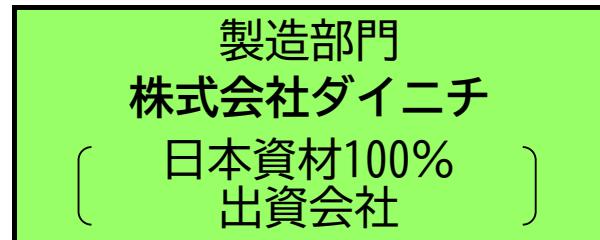


有機感光剤

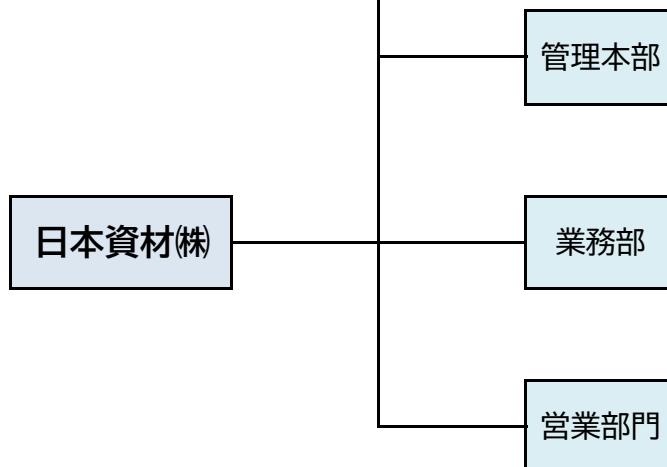
II. EA21認証対象部門と環境経営体制

1. 組織体系とEA21認証対象部門

(滋賀)



(大阪)



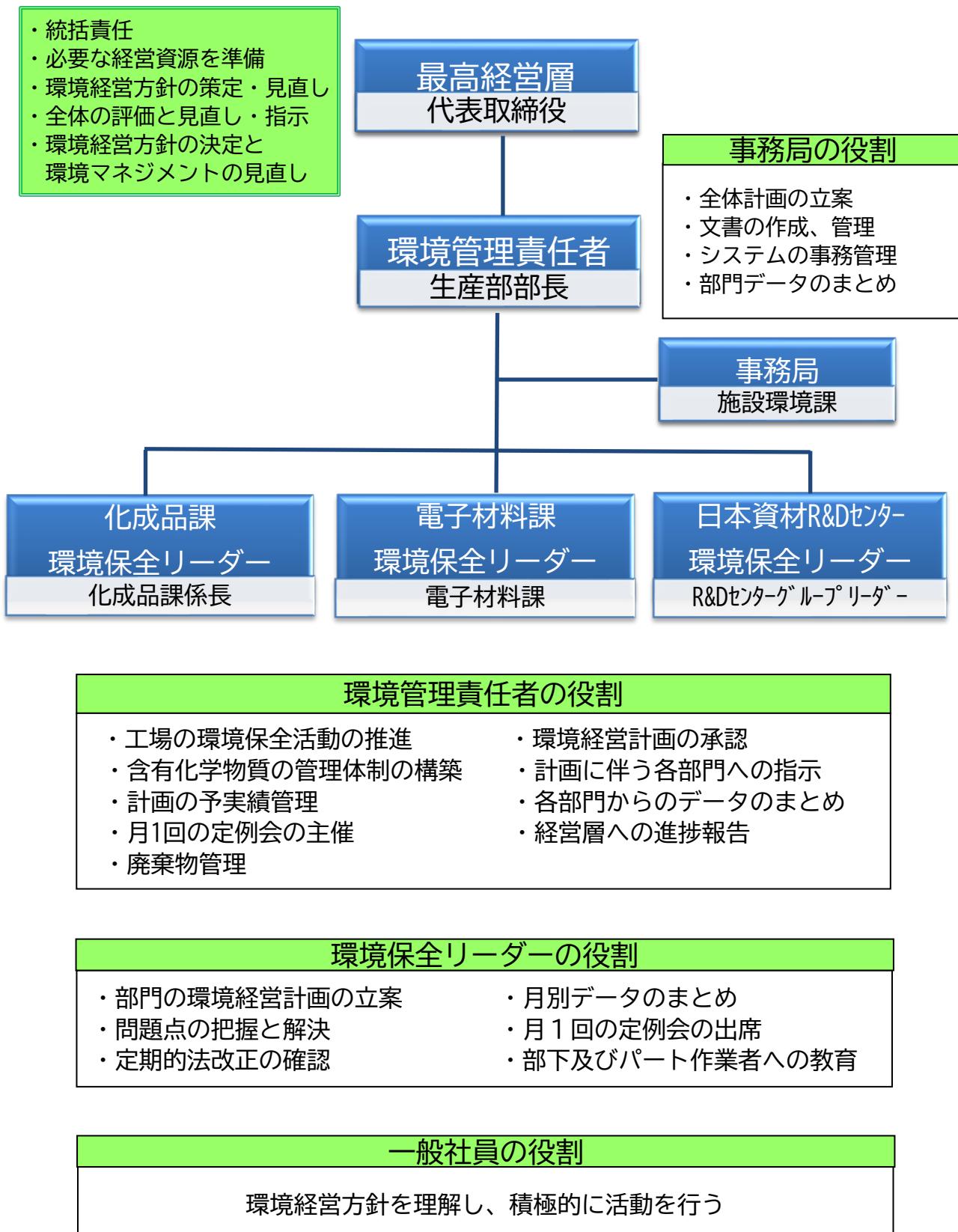
◎認証対象範囲：株式会社ダイニチ及び日本資材株式会社R&Dセンター

日本資材(株)の研究開発部門であるR&Dセンターは、(株)ダイニチの敷地内に有る為、
(株)ダイニチが主体となって、共に環境保全活動に取り組んでいます。
日本資材(株)は別途、本社（大阪）を中心にエコアクション21の活動を行っています。

◎認証対象活動：ラミネート加工及び電子材料の研究開発・製造

繊維生地とウレタンフィルムのラミネートおよびコーティング加工、機能性フィルムの製造販売
有機感光剤の製造販売、機能性顔料の微細化加工、カーボンナノチューブの分散
有機感光剤・機能性顔料の研究開発、機能性フィルムの研究開発、分散技術の開発研究

2. 株式会社ダイニチの環境経営体制



III. 環境経営方針

基本理念

株式会社ダイニチは自然に恵まれた地域に立地し地球環境を守ってゆく社会の一員として、環境負荷の少ないモノ作りを推進し、全員参加で継続的かつ積極的に人々の健康維持と地球環境保全に取り組む企業を目指します。

基本方針

株式会社ダイニチは、基本理念にのっとり、IT製品・病院関連製品・家庭用防水製品・印刷用メディア等に関する事業活動を行う中で以下の環境経営システム活動を行います。

1. 企業活動について環境負荷の自己チェックを行い、重要な項目に関しては技術的経済的に可能な範囲で環境目標を設定するとともに、これらを見直して継続的な改善を図ります。
2. 法規制、条例、その他要求事項を遵守し、環境汚染の予防に努めます。
3. 環境への負荷をできる限り少なくし、循環を基とする企業活動を目指します。
 - ①環境に配慮した製品開発を推進します。
 - ②二酸化炭素の排出量削減に努めます。
 - ③廃棄物の削減及び3R活動の推進に努めます。
 - ④5S・見える化を日々行い、効率的で環境負荷の少ない製造プロセスの構築を推進します。
 - ⑤環境に配慮した設備、備品、消耗品などのグリーン購入を推進します。
 - ⑥節水に努めます。
4. 環境の保全に関する活動に積極的に参加し、地域社会との共生を図ります。
5. 全従業員に環境方針の周知徹底を図ります。

制定 2021年 5月 1日



株式会社 **ダイニチ**

代表取締役 堂ヶ崎 重実

IV. 中期の環境経営目標

中期の環境経営目標（3年間）

- 当社は2007年度よりエコアクション21の活動を行ってきました。3年ごとに中期目標を見直し、2022年度からは新たに2021年度を基準年とした3年間の目標を設定し、2024年度までこの目標達成に向けて活動しています。
- 2024年度は中期環境経営計画の3年目となります。
- 当社で消費するエネルギーの多くは、製品製造に関わるものですので生産量原単位で数値目標を設定しました。

1. 二酸化炭素排出量の削減

※二酸化炭素排出量は各部門の総排出量を生産量で除した原単位で管理する。

改定： 2024年5月1日

製品群	単位	基準年(年間) (2021年度)	2022年度	2023年度	2024年度
化成品	kg-CO ₂ /km	261.2	258.6 〔 2021年を基準に 〕 1%減	256.0 〔 2021年を基準に 〕 2%減	253.4 〔 2021年を基準に 〕 3%減
電材製品	kg-CO ₂ /kg	76.4	75.6 〔 2021年を基準に 〕 1%減	74.9 〔 2021年を基準に 〕 2%減	74.1 〔 2021年を基準に 〕 3%減

※二酸化炭素排出係数は、関西電力の2019年度調整後排出係数 0.418kg-CO₂/kWhから
2022年度調整後排出係数 0.350kg-CO₂/kWhに変更

2. 産業廃棄物総排出量の削減

※廃棄物排出量は非再資源化産廃排出量を化成品生産量で除した原単位で管理する。

項目	単位	基準年(年間) (2021年度)	2022年度	2023年度	2024年度
工場全体	kg/km	32.3	32.0 〔 2021年を基準に 〕 1%減	31.7 〔 2021年を基準に 〕 2%減	31.3 〔 2021年を基準に 〕 3%減

3. 産業廃棄物（特別管理）総排出量の削減

※廃棄物（特別管理）排出量は総排出量を化成品生産量で除した原単位で管理する。

項目	単位	基準年(年間) (2021年度)	2022年度	2023年度	2024年度
総排出量	kg/km	11.40	11.29 〔 2021年を基準に 〕 1%減	11.17 〔 2021年を基準に 〕 2%減	11.06 〔 2021年を基準に 〕 3%減
最終処分量	kg/km	1.82	1.80 〔 2021年を基準に 〕 1%減	1.78 〔 2021年を基準に 〕 2%減	1.77 〔 2021年を基準に 〕 3%減

4. 化学物質使用量の削減

※化学物質使用量は総使用量を化成品生産量で除した原単位で管理する。

項目	単位	基準年(年間) (2021年度)	2022年度	2023年度	2024年度
総使用量	kg/km	107.7	106.6 〔 2021年を基準に 〕 1%減	105.5 〔 2021年を基準に 〕 2%減	104.5 〔 2021年を基準に 〕 3%減

5. 節水、グリーン購入、環境に優しい製品作りについては数値目標は立てずに意識改革を推進します。

6. 新入社員には当社の環境理念を説明し、エコアクション21の取り組みについて教育します。 活動報告は掲示板に掲示します。

V. 2024年度の環境経営計画と活動結果の評価

2024年度環境経営計画と活動結果の項目別評価一覧表

(期間 2024年5月～2025年4月)

環境経営目標	活動項目	部門	活動結果の評価
・使用電力 (単位生産量当り) 2021年度比3%減	(1) 停止機械のメインスイッチオフ (2) 休み時間の消灯の徹底 (3) 適正温度での空調 (4) 圧縮エアーの漏れ防止 (5) 工場蛍光灯のLED化 (6) 乾燥機の効率利用 (7) コンプレッサーの効率利用 (8) 蛍光灯のLED化 (9) 真空ポンプの稼働状況可視化 (10) 軟水器の小型化 (11) 天井照明のLED化 (12) 不要時の消灯 (13) パソコンのスリープ設定	化成品 & 電材 化成品 電材 R&D	○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
・重油、LPG使用量 (単位生産量当り) 2021年度比3%減	(1) 温調用蒸気配管の更新 (2) ラミネート機の切り替え時間の短縮	化成品	○ ○
・産業廃棄物排出量 (単位生産量当り) 2021年度比3%減 ・産業廃棄物(特管)排出量 (単位生産量当り) 2021年度比3%減 ・化学物質使用量 (単位生産量当り) 2021年度比3%減 ・節水、省資源	(1) 接着剤廃棄量の削減 (2) 無溶剤接着剤への置き換え (3) 生地不良を生地メーカーにフィードバックすることによる、生地不良の解消 (4) 溶剤・梱包材の再利用 (5) 不要書類の裏紙使用 (6) 無駄な水使用防止 (7) 水道ホースへの止水ノズル取り付け (8) ごみの分別	化成品 電材	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
・環境に優しい製品開発	(1) 遮光3層広告幕の軽量化 (2) 植物由来ウレタンの使用 (3) 天然素材(セルロース)を利用した電極材の開発 (4) 水性導電塗料の応用開発	化成品 R&D	○ △ △ ○
・5S活動と見える化	(1) 廃棄物の分別	化成品	○

※評価結果 ○：目標達成。 △：計画通りに進まなかつたが部分的に活動できた。 ×：目標未達。

VI. 活動の結果と評価

二酸化炭素排出量の削減、産業廃棄物の削減、化学物質使用量の削減については数値目標を立てて活動してきました。
その結果と評価およびその他の環境経営活動について以下の通り報告します。

1. 二酸化炭素排出量の推移（重油、LPG及び電力から発生する二酸化炭素の原単位を削減目標としています）

製品群	単位	2021年実績 (基準年)	2022年実績	2023年実績	2024年目標	2024年実績	目標に対する増減	前年対比	2024年度の評価
化成品	kg-CO ₂ /km	261.2	261.8	281.9	253.4	268.4	5.9%	-4.8%	△
	kg-CO ₂	874,471	893,811	987,781	-	888,270	-	-10.1%	-
電材製品	kg-CO ₂ /kg	76.4	69.3	121.5	74.1	74.7	0.8%	-38.5%	○
	kg-CO ₂	109,039	108,823	80,452	-	93,845	-	16.6%	-
削減対象排出量	kg-CO ₂	983,510	1,002,634	1,068,233	-	982,115	-	-8.1%	-
総排出量	kg-CO ₂	985,534	1,003,512	1,069,093	-	982,671	-	-8.1%	-

※二酸化炭素排出係数 関西電力 0.350kg-CO₂/kWhを採用

※原単位の計算根拠 2024年度の削減対象排出量が982,115kg-CO₂で、

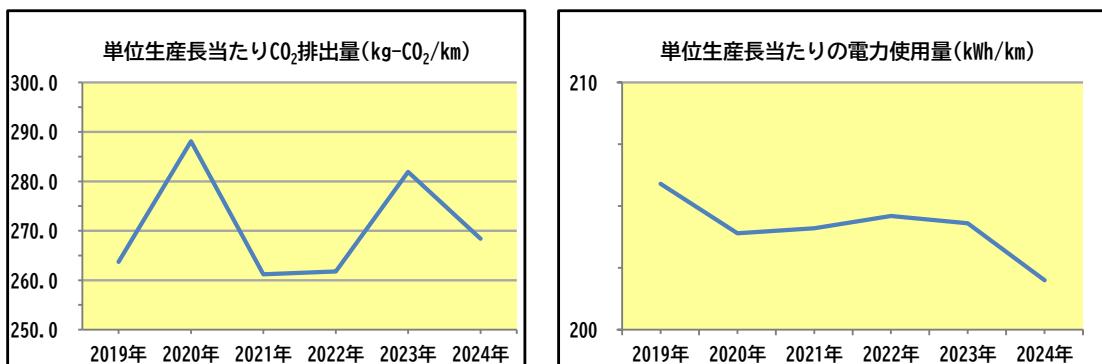
内訳は化成品888,270kg-CO₂、電材製品93,845kg-CO₂でした。

原単位の計算式 化成品：888,270を生産量3,310kmで割り、268.4kg-CO₂/km

電材製品：93,845を販売量1,257kgで割り、74.7kg-CO₂/kg となります。

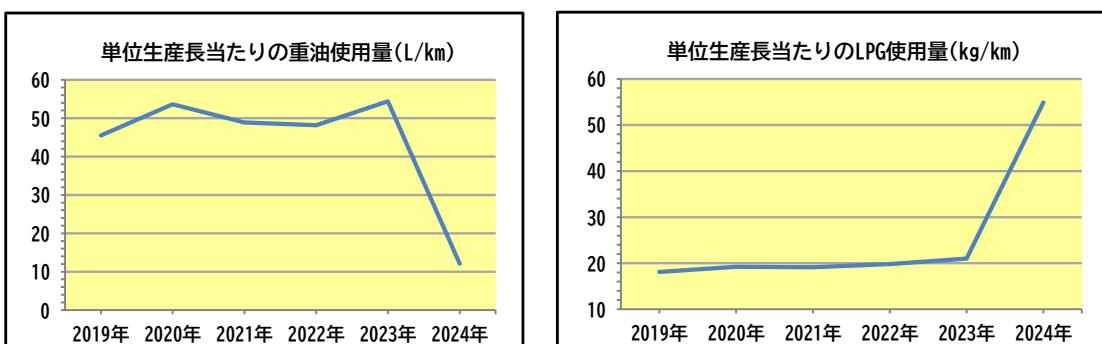
①化成品部門（コメント：化成品課 環境保全リーダー）

化成品部門における2024年度の二酸化炭素排出量原単位は、前年対比4.8%減、及び目標より5.9%増となり目標の達成には至りませんでした。エネルギー別原単位で見ると、電力使用量としては近年で一番少なくなりました。今後も機械の省エネ化を検討し、効果の持続を図っていきます。



次に重油使用量原単位は前年対比77.7%減となりました。大きな要因としては2024年8月に重油ボイラーを廃止し重油の使用をストップした事で今回の結果となりました。

逆にLPG使用量原単位は前年対比161.4%増となり、重油ボイラーからガスボイラーへ更新した事で使用量が一気に跳ね上がった結果になりました。今後はLPG使用量の削減を目指して行きたいと考えています。



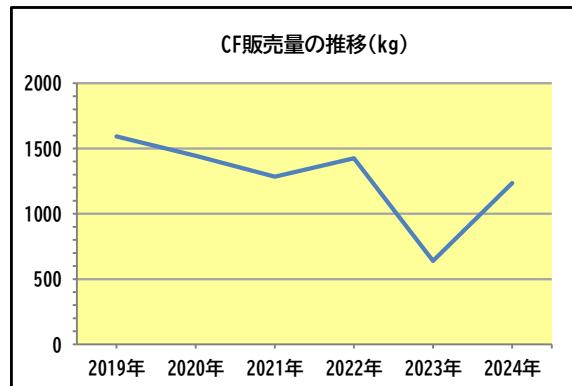
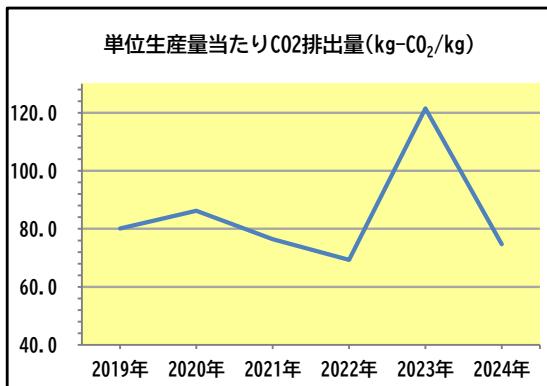
接着剤廃棄量については塗工膜厚測定器を導入した事により、接着剤の廃棄口を大幅に削減できると考えております。
品質向上に加え無駄の削減を同時に進めて行きたいと思います。

②電材部門（コメント：電子材料課 環境保全リーダー）

電材部門の単位生産量あたりのCO₂排出量は前年対比で38.5%の減少、目標に対しては達成率99.2%と前年より大きく改善いたしました。

これは生産重量が前年比約90.6%の大幅増であったのに対し、CO₂排出量が前年比16.6%増にとどまったことが原因と考えます。

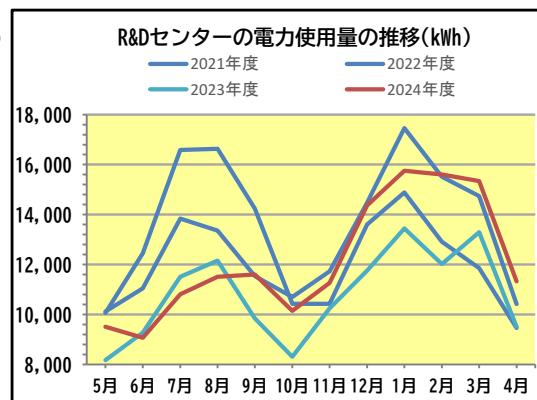
生産量が大きく伸びたことで固定費の全体に占める割合が小さくなつたためです。ただ生産量の増減は受注量次第であり、次年度は受注減の見込みですので、ふたたび悪化することが予想されます。外的要因に大きく左右されるところではありますが、なお一層節水、省電力、また収率アップに努めていきたいと考えます。



③R&Dセンターの電力使用量（コメント：R&Dセンター 環境保全リーダー）

例年通り、電力使用量の変動はほとんど空調によるものです。

2024年度の夏の電力使用量は、2023年度と同等でした。一方、冬の電気使用量は全体的に上がつておきました。2024～25年の冬は全国的には平年並みの寒さでしたが、西日本は寒く、この辺りは雪も数回積もりました。また、2023～24年の冬は、全国的に高温で、過去30年平均から1.27°Cと統計開始以来2位の暖冬だったこともあり、電気使用量は低く出していたと考えられます。



④重油の廃止→LPG(ガス)に一本化・ボイラ庫の新設＆ボイラーの更新（コメント：事務局）

2024年8月、重油炊きボイラーの使用を停止し、ガス炊きボイラーへ完全移行しました。小型ボイラーも新たに設置。

稼働日はガス炊きボイラーを使用し、休業日は小型ボイラーに運転を切替え無駄なエネルギーの消費を抑え効率的な稼働を目指します。

燃焼効率を上げ、燃料代削減とともにCO₂排出量の削減を目指し、地球温暖化の防止につなげていきます。



2. 廃棄物排出量について（コメント：環境管理責任者/事務局）

・産業廃棄物排出量について集計

項目	2021年 実績 (基準年)	2022年 実績	2023年 実績	2024年 目標	2024年 実績	目標に対 する増減	前年対比	2024年度の 評価
非再資源化産廃排出量を 化成品の生産量で除した 原単位 (kg/km)	32.3	30.6	32.9	31.3	31.3	0.0%	-4.9%	○
非再資源化 産廃排出量 (kg)	108,020	104,590	115,110	-	103,540	-	-10.1%	-

【特別管理産業廃棄物を除いた全産業廃棄物排出量】から、再資源化されるものを差し引いた数値を

【非再資源化産廃排出量】として規定し、その量を化成品の生産量で除した原単位での削減を目標としています。

計算根拠：（産業廃棄物排出量(311,956kg) - 再資源化量 (208,416kg)) ÷ 生産量(3,310km) = 31.3kg/km

2024年度の非再資源化産廃排出量原単位は31.3kg/kmとなり、目標対比0.0%増で目標達成しました。

・産業廃棄物（特別管理）排出量について集計

項目	2021年 実績 (基準年)	2022年 実績	2023年 実績	2024年 目標	2024年 実績	目標に対 する増減	前年対比	2024年度の 評価
総排出量を化成品の 生産量で除した 原単位 (kg/km)	11.40	10.49	12.43	11.06	12.24	10.7%	-1.5%	△
総排出量 (kg)	38,160	35,820	43,560	-	40,500	-	-7.0%	-
最終処分量を化成品の 生産量で除した 原単位 (kg/km)	1.82	2.04	4.59	1.77	2.92	65.0%	-36.4%	△
最終処分量 (kg)	6,077	6,948	16,092	-	9,655	-	-40.0%	-

【産業廃棄物（特別管理）総排出量】を化成品の生産量で除した原単位を削減の目標にしています。

また、【産業廃棄物（特別管理）総排出量】から再資源化されるものを除いた数値を【最終処分量】と規定し、その数値を化成品の生産量で除した原単位も削減の目標にして、再資源化の推進を図っています。

2024年度の総排出量原単位は12.24kg/kmとなり、目標対比10.7%増で目標達成できませんでした。また、最終処分量原単位は2.92kg/kmとなり、目標対比65.0%増で目標達成できませんでした。

前年と比較して改善傾向がみられるものの、最終処分量は依然として高水準にあります。引き続き、CO₂排出量の削減および資源のリサイクル推進に貢献できるように努めてまいります。

3. 化学物質使用量について（コメント：化成品課 技術開発）

項目	2021年 実績 (基準年)	2022年 実績	2023年 実績	2024年 目標	2024年 実績	目標に対 する増減	前年対比	2024年度の 評価
総使用量を化成品の 生産量で除した 原単位 (kg/km)	107.7	103.1	104.8	104.5	98.9	-5.4%	-5.6%	○
化学物質総使用量 (kg)	360,467	351,896	367,253	367,253	327,345	-	-10.9%	-

【化学物質総使用量】を化成品の生産量で除した原単位を削減の目標にしています。使用している化学物質（PRTR物質）は、ポリウレタンのフィルム樹脂・接着剤を希釈するためのDMF及びトルエンが化学物質総使用量の97%以上を占めています。

2024年度の総使用量原単位は98.9kg/kmとなり、目標対比5.6%減で目標達成できました。内訳を見ると希釈溶剤として使用しているトルエン及びDMFの使用量が減少しており、溶剤系ラミネートから無溶剤ラミネートへの切替えの効果が現れています。また防炎剤に含まれている三酸化アンチモンの使用量削減も進めています。

4. 節水について（コメント：電子材料課 環境保全リーダー）

項目	2021年 実績 (基準年)	2022年 実績	2023年 実績	2024年 実績	基準年に 対する 増減	前年対比
水使用量 (m ³)	10,789	10,319	3,193	5,707	-47.1%	78.7%

水使用量の多くは電材製品の製造(冷却、洗浄)、貫流ボイラー、廃熱ボイラーに使用されています。

電材製品は、水の使用量を変えると製品の品質に影響を及ぼすため、水使用量に目標は設定していません。

2024年度の水使用量は前年対比78.7%の増加となりました。原因は電材部門の生産量が90.6%増になったため、電材工場でのミキサー稼働時の冷却水、製品洗浄時の軟水の使用が大幅に増加、これが全体の数字を大きく押し上げたものと考えます。

電材部門の受注量に左右され、次年度は受注減、水使用量減の予測ですが、外的要因にかかわらず無駄な水使用をせずより一層節水に努めていきたいと思います。

5. 環境事故の想定訓練及びその対応（コメント：化成品課 環境保全リーダー/事務局）



2024年8月9日、ダイニチ敷地内において全従業員が参加し屋外消火栓による放水訓練を実施しました。まず屋外消火栓の操作手順、ホース等の準備方法、放水の合図など具体的な情報を全体に周知し訓練開始。

実際に数名の従業員が手順書の内容に沿って一連の放水活動を行なう行動、動作、内容の確認をしました。

初めて消火栓を使用した訓練に参加する者も多く、ホースの脱着方法やホース内にかかる水圧、放水時の飛距離など実際に体験してもらいました。基本情報と基本動作の確認を行う屋外消火栓による放水訓練となりました。



6. 環境に配慮した製品開発

① 遮光3層広告幕の軽量化（コメント：化成品課 技術開発）

全品番軽量化タイプへ移行後、順調に生産を進めています。

② 植物由来ウレタンの使用（コメント：化成品課 技術開発）

フィルム樹脂及び接着剤樹脂の検討が完了しました。現在は透湿タイプの植物由来ウレタンの検討を進めています。

③ 天然素材(セルロース)を利用した電極材の開発（コメント：R&Dセンター 環境保全リーダー）

天然素材であるセルロースナノファイバーとカーボンナノチューブを用いた導電性複合紙を太陽光電池の裏面電極への利用等でサンプルの引き合いがあり、第24回国際ナノテクノロジー総合展にも出展しました。

現状、複合紙の開発はストップしておりますが、今後うごきがあればまたご報告します。

④ 水性導電塗料の応用開発（コメント：R&Dセンター 環境保全リーダー）

環境への配慮の高まりから、水系でのカーボンナノチューブ分散液の引き合いが増え、サンプル依頼に対応しました。

カーボンナノチューブと各種エマルションとの複合材のヒーター用途や温度センサーへの応用を検討し、

前記の国際ナノテクノロジー総合展に出展しました。

7. その他の活動

- ①新入社員には環境教育及び啓発活動を継続して実施しています。
- ②清掃美化活動として、琵琶湖の美化や近隣の清掃活動に協力しています。
- ③工場内で使用する文具やコピー紙はエコマークの表示があるものを優先的に購入しています。

VII. 来年度(2025年度)の環境経営計画

来年度（2025年5月～2026年4月）環境経営計画は下記の項目について活動します。

環境経営目標	活動項目	部門	担当
・電力使用量 (単位生産量当り) 2024年度比1%減	(1) 停止機械のメインスイッチオフ (2) 休み時間の消灯の徹底 (3) 適正温度での空調 (4) 圧縮エアーの漏れ防止 (5) 工場蛍光灯のLED化 (6) 乾燥機の効率利用 (7) コンプレッサーの効率利用 (8) 蛍光灯のLED化 (9) 真空ポンプの稼働状況可視化 (10) 天井照明のLED化 (11) 不要時の消灯 (12) パソコンのスリープ設定	化成品 & 電材 化成品 電材 R&D	生産部 全員 生産部 全員 センター長 全員
・LPG使用量 (単位生産量当り) 2024年度比1%減	(1) 温調用蒸気配管の更新 (2) ラミネート機の切り替え時間の短縮	化成品	生産部
・産業廃棄物排出量 (単位生産量当り) 2024年度比1%減 ・産業廃棄物(特管)排出量 (単位生産量当り) 2024年度比1%減 ・化学物質使用量 (単位生産量当り) 2024年度比1%減 ・節水、省資源	(1) 接着剤廃棄量の削減 (2) 無溶剤接着剤への置き換え (3) 生地不良を生地メーカーにフィードバックすることによる、生地不良の解消 (4) 溶剤・梱包材の再利用 (5) 不要書類の裏紙使用 (6) 無駄な水使用防止 (7) 水道ホースへの止水ノズル取り付け (8) ごみの分別	化成品 化成品 電材	生産部 技術部 全員
・環境に優しい製品開発	(1) 植物由来ウレタンの使用 (2) モノマテリアル製品の開発 (3) ラミネート加工時の溶剤使用量の低減	化成品 R&D	技術部 第2グループ
・5S活動と見える化の推進	(1) 廃棄物の分別	化成品	生産部

VIII. 環境関連法規等の遵守状況

1. 環境関連法規等の遵守状況

定期的法規制遵守評価表を作成し、2024年12月に確認しました。

	法 律 名	遵守すべき主な事項	遵守状況
1	労働安全衛生法	安全衛生の教育、作業環境測定、定期健康診断の実施	適合
2	毒物及び劇物取締法	対象化学物質の管理	適合
3	化管法 (PRTR法)	対象化学物質の管理と報告	適合
4	化審法	少量新規の申請	適合
5	大気汚染防止法	VOC対象物質測定と報告、焼却炉の保守点検	適合
6	フロン排出抑制法	空調冷蔵冷凍機器の定期点検・簡易点検と記録	適合
7	水質汚濁防止法	排出基準値の遵守	適合
8	下水道法	水質測定、排出基準の遵守	適合
9	騒音規制法及び振動規制法	騒音及び振動の規制値遵守	適合
10	廃棄物処理法	保管基準、委託基準、定期報告の遵守	適合
11	消防法	危険物の適切な保管と適切な防火設備の設置	適合
12	RoHS指令	対象10物質の規制濃度の遵守	適合

2. 違反、訴訟等の有無

過去3年間、法規制違反及び訴訟はありませんでした。

IX. 代表者による全体の取組状況の評価と見直し・指示

総括

2024年度は諸物価の値上がりの影響が顕著に現れた。食料品の値上がりは依然続いている、この影響を受けて生活用品の売り上げはジリ貧となってきた。

このような状況下でも弊社の製品に需要があるのは、中国製などで置き換えられない性能を有する強みがあると考えられる。病院関連用品や産業資材分野の製品は該当する製品が多く今後も伸ばして行きたい。

2024年は大幅な設備投資を行なった。前半でこれまでの重油ボイラからLPGによる貫流ボイラに更新した。後半では生産性に寄与すべくグラビア表面処理装置、自動膜厚計、アキュームレータの3設備の導入を行なった。実際の効果は2025年度になると思われるが逐次運用にあたってゆく。

1. 二酸化炭素排出量、重油・LPG使用量、電力使用量について

二酸化炭素排出量は昨年よりは減少したものの目標には届かなかった。2024年8月に導入したLPGボイラで工場の燃料をLPGに一本化したが、顕著な効果は見られなかった。引き続きエネルギー効率化のための対策を取ってゆく。

電力使用量は、夏期、冬季に空調機器の稼働によりピークを迎えるが、近年夏期が長引く傾向にあり、冷房用空調機器の使用期間も増加してきている。生産効率を上げることと省エネ機器の導入は引き続き取り組んでゆく。

2. 廃棄物排出量について

産業廃棄物排出量は地道な5S活動や生産効率化取り組みの効果と思われ、引き続き活動の強化と削減に取り組んでゆく。

産業廃棄物（特別管理）は溶剤による洗浄作業を減らす取り組みを強化したい。加工処方を統一するなどの対策を講じる。

化学物質については無溶剤型接着機の稼働の効果が現れてきたと考えられる。

3. 環境方針、目標の見直しについて

2024年度は仕入れコスト上昇が一部を除き、高止まりのまま一段落した。価格転嫁も頻繁に行なってきたがそれに伴って受注減となった製品も多々あった。今年度は昨年度で実施した設備投資を本格稼働させ、生産の効率化でコストダウンを図り受注回復を目指すと共に廃棄物の削減にも繋げて行きたい。

環境経営方針、目標についてはこのまま継続し引き続き地道な努力を続ける。